



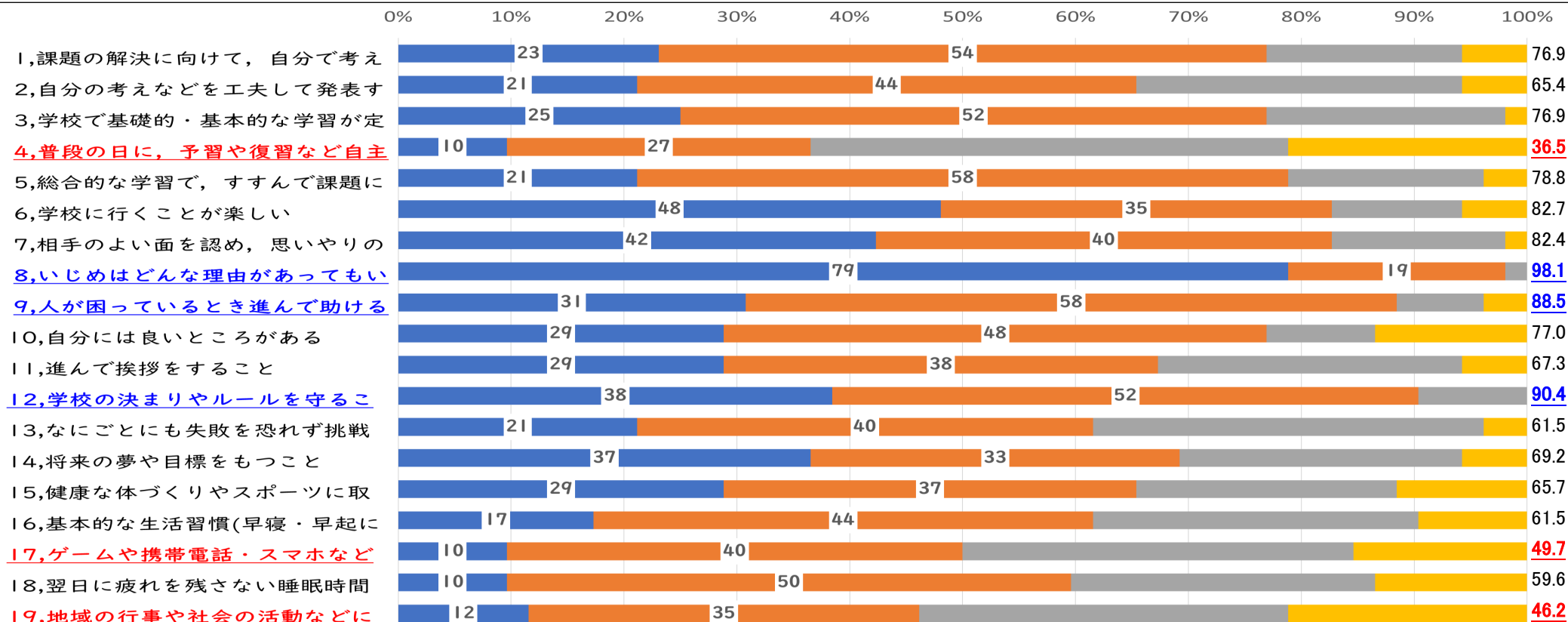
学校教育目標『豊かな心と知性をそなえ、自らの未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成』

令和6年度 京都市立九条中学校 学校評価アンケート 【後期：生徒】 集計結果/分析

令和7年2月14日

京都市立九条中学校

校長 川島 浩 明



後期の生徒アンケート結果から『確かな学力』の育成に向けての項目1～5では特に、『4,普段、予習や復習など自主的に家庭学習に取り組む』《36.5%》が他の項目や前期《60.5%》に比べて顕著に低い結果であり、今後の大きな課題と言える。生徒にとって『学習』は言うまでもなく学校生活の根幹であり、その『学習指導』は我々教職員にとって生徒との確かな信頼関係を築く重要なツールである。そのためには、個々の生徒の能力や特性に応じた課題設定と指導方法を再確認する必要があると強く感じる。また、テスト等の結果に一喜一憂するだけの『学習』ではなく、生徒が主体的に、自ら探究する意欲に繋がる学習指導を目指し、日常の授業はもとより、定期テストや学習確認プログラム（予習・復習シート）の事前事後の計画的な取組み、加えて、デジタルドリル、ロイロノートを通じたGIGA端末やICT機器の効果的な活用等、生徒の学習に対する興味、関心や意欲を高めるための意図的な手立ての工夫、改善が求められる。

次に『豊かな心』の育成に向けての項目6～13では概ね安定した結果の中では、『8,いじめはどんな理由があってもいけない』《98.1%》、『9,人が困っているとき進んで助ける』《88.5%》、『12,学校の決まりやルールを守る』《90.4%》という結果が得られた。いじめを許さない毅然とした姿勢や自他共に大切にする姿勢などは、日々の学級活動、とりわけ道徳授業や定期的な人権学習の取り組みの賜物であり、また、本年度の取り組みの軸である全校による『たてわり活動』による成果のひとつとも言える。全校生徒が学級、学年を越えた仲間との関わりを通して、他者との相互理解を深め、仲間を認めて大切にする気持ち、また、そこから自己有用感や肯定感をへとつながる有意義な取り組みとして今後も引き続き取り組みたい。

最後に『健やかな体』の育成に向けての項目15～19では、『17,ゲームや携帯・スマホの使用時間をコントロールする』《49.7%》、『18,翌日に疲れを残さない睡眠時間を確保する』《59.6%》、『19,地域の行事や社会の活動などに取り組むこと』《46.2%》という結果であった。特にゲームやスマホに関して、SNS等による実社会での様々な問題や事案とも関連させたネットリテラシー教育（防犯教室、ケイタイ教室等）を通じて、これからのデジタル社会を生きるための社会性を身に付けさせたいと思う。

◆グラフの見方《達成度 %》

よくできている

大体できている

あまり出来ていない

出来ていない

◆学校評価アンケート項目【生徒】

- 1,課題の解決に向けて、自分で考え、取り組むこと
- 2,自分の考えなどを工夫して発表すること
- 3,学校で基礎的・基本的な学習が定着できること
- 4,普段の日に、予習や復習など自主的に家庭学習に取り組むこと
- 5,総合的な学習で、すすんで課題に取り組み発表すること
- 6,学校に行くことが楽しい
- 7,相手のよい面を認め、思いやりの心を持つ
- 8,いじめはどんな理由があってもいけない
- 9,人が困っているとき進んで助けること
- 10,自分には良いところがある
- 11,進んで挨拶をすること
- 12,学校の決まりやルールを守ること
- 13,なにごとにも失敗を恐れず挑戦すること
- 14,将来の夢や目標をもつこと
- 15,健康な体づくりやスポーツに取り組むこと
- 16,基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)を身につけること
- 17,ゲームや携帯電話・スマホなどの使用時間を適切にコントロールすること
- 18,翌日に疲れを残さない睡眠時間を確保すること
- 19,地域の行事や社会の活動などに取り組むこと